



ながれ

2度のオリンピック・パラリンピックから学ぶ

校長 立野 文雄

今年度は、昨夏の東京と今冬の北京と、2度のオリンピック・パラリンピックが開催されました（冬季パラリンピックは3月4日から）。日本の選手も多くの種目に出場し活躍しました。

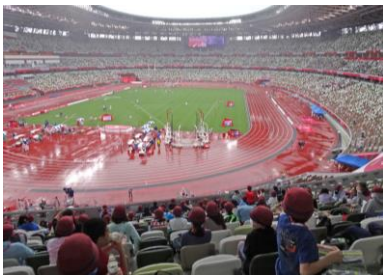
メダルを取ることが目標の選手、8位に入賞すること、また、オリンピックに出場することが目標の選手もいたと思います。それぞれの夢や目標に向かって、一生懸命に頑張る選手の姿に感動し、応援する気持ちが一層高まりました。テレビの前で思わず「ガンバレ！」と声が出ることもありました。

各国選手の、練習に地道に取り組む姿や、最後まで諦めないで頑張る姿を観ることは、子供たちが自分の夢や目標に向かう上で励みになります。子供たちなりに観て聞いて感じたことを、今後の生活に生かして欲しいと思います。

本校はオリンピック・パラリンピック教育アワード校として、次のような取組を行ってきました（実施できない年度もあり）。

- ブラインドサッカー、車いすラグビー、ボッチャ体験
- オ礼°ア・パ°リ礼°アからの講話
- 障害者理解教育
- いろいろな国の国旗やあいさつ調べ
- 日本の昔遊び体験
- 日本の伝統文化（茶道）体験
- 手話ダンス体験
- 誰もが住みやすい町づくりを考える
- 地域清掃活動
- バリアフリー・ユニバーサルデザインを考える
- 留学生との交流会
- 世界ともだちプロジェクト：ネパールを知ろう など…

今後もこのような取組を通して、子供たちに、自己肯定感やスポーツに親しむ心、日本人としての自覚や国際感覚、多様性を尊重する態度を育成していきたいと考えています。



<パラリンピック観戦>



<茶道体験>

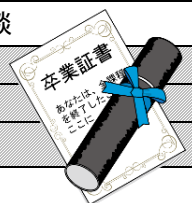
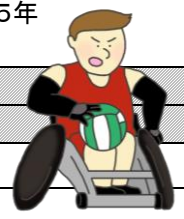
◇まとめの3月、進級・進学に向けて

今年度もコロナ禍、教育活動等に様々な制約がありました。そのような中、子供たちは本当によく頑張りました。残り1か月となりましたが、1年間の学習・生活のまとめにしっかりと取り組ませたいと思います。晴れ晴れとした修了式、そして、6年生は制約の中の卒業式となりますが、立派に旅立つよう、子供たちと共に教職員一同、努めてまいります。

地域・保護者の皆様には、本年度の本校の教育活動へのご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。

3月の主な行事予定

1	火	
2	水	模擬選挙6年
3	木	演劇鑑賞教室ワークショッププログラム4年
4	金	車いすラグビー体験4・5年 移動教室代替行事6年
5	土	
6	日	
7	月	6時間授業4～6年
8	火	
9	水	第2回戸三小漢字検定
10	木	安全指導
11	金	まなびの教室終
12	土	
13	日	
14	月	6年生を送る会 6時間授業4～6年
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	まなびの教室個人面談
19	土	
20	日	
21	月	春分の日
22	火	
23	水	5時間授業1～5年 給食終 卒業式予行6年
24	木	4時間授業 修了式
25	金	第96回卒業式6年
26	土	春季休業日始



4月

5	火	春季休業日終 前日準備新6年
6	水	新年度始業式 入学式
7	木	4時間授業 定期健康診断始
8	金	給食始 身体計測3～6年

※予定は変更になることがあります。
 ※3月も引き続き特別時程とします。
 ※避難訓練は予告なしで実施します。
 ※卒業式に出席するのは6年生のみです。

卒業までカウントダウン

6年担任

6年生の教室の前には、子供たちが書いたカウントダウンカレンダーが掲示してあります。卒業レクリエーション委員が、カレンダーに書く内容を話し合い、それぞれの「6年間の思い出」を書き込んだカレンダーが完成しました。

みんなの思い出を読んでいると、「校庭に雪が積もってみんなで遊んだ日のこと」「教室で友達とおしゃべりをしたこと」「授業中に発表して楽しかったこと」と、日常の様子を書いている人が多いことに気が付きました。日光移動教室に行くことができず、悲しい思いもしましたが、当たり前前の日常の中に、楽しみや幸せを見付けていることに心が温かくなりました。

このメンバーで教室で学んだり遊んだりする日々も残りわずかです。卒業式を清々しい気持ちで迎えられるように、その日、その瞬間を噛みしめながら過ごしていきたいと思います。



国語科「書くこと」

研究主任

本年度の校内研究は「主体的・対話的で深い学びのできる児童の育成」をテーマに、主に国語科の「書くこと」の領域を研究しました。子供たちが、自分の考えを的確な言葉を使って表現できることを目標に、各学年が国語の校内研究授業を行いました。

低学年では順序に気を付けて説明をする文章、中学年では自分で調べたことを要約したり選んだりして伝える文章、高学年では自分の考えを効果的に伝え、相手を納得させるための文章など、系統立てて授業を行いました。また、教員の書いたモデル文を示すことや、タブレットを用いて取材で写真を撮影したり、文章構成をカードにまとめたりして、授業を行いました。

どの学年も、いざ文章を書き始めると鉛筆の音だけが響き、書き終わると自分の文章を友達とチェックし合い、意欲的に取り組んでいました。



ブラインドサッカー体験

4年担任

ブラインドサッカーは、目が不自由な人の行うスポーツと思われがちですが、実はそうではありません。ゴールキーパーやフィールドプレイヤーをサポートするガイドは晴眼者（目の見える人）が行います。また、フィールドプレイヤーは全員アイマスクを付けるので視覚の障がいの有無に関わらず、誰もが楽しめるスポーツです。

4年生はアイマスクを付けて、プレイヤーとガイドを交代で経験しました。目が見えないと真っすぐに歩くこともうまくできなかったり、ボールを上手に蹴ったりすることがなかなかできません。ガイドのサポートが大切になります。最初は「もう少し前。ちょっと右。」というような指示でしたが、授業が進んでいく中で、「大股一歩右に。10cm後ろだよ。」など、具体的で分かりやすい伝え方になっていきました。

講師の方から、「ブラインドサッカーは実現したい社会そのもの」という話がありました。相手の立場に立って考えること、思いやりの気持ちをもつこと、互いに協力し合うことが生きていく上で大切だと、ブラインドサッカーを通して改めて学ぶことができました。



音楽室より

音楽専科

3学期に入り、音楽室ではトーンチャイムやハンドベルの音が鳴り響いています。トーンチャイムやハンドベルは1台につき1つの音程しか音が出せませんが、柔らかく響く音色が魅力的で、楽器の扱いやすさなども含め、幅広く愛されている楽器です。様々な音程のトーンチャイムやハンドベルの音色をつなげていくことで、旋律が生まれます。初めは恐る恐る音を出していた子供たちも、きれいな音が鳴り響くと笑顔がこぼれ、すぐに楽器に慣れることができました。唱歌、ジブリ、ディズニーなど、どの学年もいろいろな曲の練習に励んでいます。音をうまくつなげようと声をかけ合いながら練習を重ねる子供たちの様子を見ると、心のつながりの大切さを感じます。

その他、ミニキーボード合奏や打楽器合奏、リズム活動、ボディパーカッション活動など、リコーダーや鍵盤ハーモニカ、合唱活動が主軸となっていたこれまでの音楽の授業からは少し形を変えましたが、子供たちはどのような活動も明るく前向きに取り組んでいます。感染対策に伴い、教育活動において様々な制限がありますが、心をつないで1つのものを作り上げる喜びを大切にしながら続けてほしいと願っています。



※新型コロナウイルス感染症の影響により、お子様のことで不安などがありましたら、学校にご連絡ください。
※家庭での毎朝の検温や健康観察を行い、お子様が発熱や体調不良の場合や、同居する親族に風邪症状が見られた場合は、PCR検査を受ける前であってもお子様の登校をお控えください。